

中国電影大觀



ドラゴン・スクワッド (猛龍／DRAGON SQUAD)

2006(平成18)年 8 月31日鑑賞(東映試写室)



監督・脚本=李仁港／アクション監督=錢嘉樂／製作総指揮=スティーヴン・セガール／出演=吳建豪／余文樂／黃聖依／夏雨／周俊偉／マイケル・ピーン／ホ・ジュノ／マギー・Q／李冰冰／任達華／洪金寶 (エスピーオー配給／2005年香港映画／111分)

……世界各国から集められた若きエリート国際警察が、3人の国際テロリストたちと対決！『インファナル・アフェア』『SPL(殺破狼)／狼よ静かに死ね』と同じ香りがする刑事もののアクションだが、多彩な登場人物の個性がそれぞれ光り輝いているのが大きな特徴。私の注目点は、断然3人の美女だが、さてあなたは……？ 国際色豊かな香港を舞台に展開される、個人戦の技の冴えとスピード感も見モノ……。中日ドラゴンズの優勝まちがいなしとなった昨今、中日ファンにはこの『ドラゴン・スクワッド』の公開とあわせて二重の喜び……？

香港映画の枠を超えた香港映画！

近時の香港映画の代表作は何と言っても『インファナル・アフェア』3部作(02年、03年、03年)だが、この『ドラゴン・スクワッド』は、『インファナル・アフェア』のもつ香港映画の特徴をそのまま引き継ぎながら、その枠を超えて大きくスケールアップさせたもの。すなわちここで戦うのは香港警察 vs. 香港マフィアではなく、国際警察 vs. 国際テロリスト。したがって登場人物も香港のスターに限らず、台湾、中国、アメリカ、韓国から著名スターが大集合！そして製作総指揮は、何とあの『沈黙』シリーズで今なお現役バリバリのアクションを見せているスティーヴン・セガール。

パンフレットによれば、このセガールの存在によって1億2千万香港ドルという破格の製作費と豪華キャストが実現したとのこと。そしてまた、この『ドラゴン・スク

ウッド』は香港映画として初めて中国国家博物館のコレクションに加えられるという快挙を成し遂げ話題を集めたとのこと。昨年は、猛虎「阪神タイガース」の優勝に日本国中が沸いたが、今年はどうみても中日ドラゴンズ＝猛龍の優勝はまちがいない！落合監督とは犬猿の仲である岡田監督はさぞ悔しいだろうが、今岡のケガだけではなく、終盤に至っての久保田、藤川の故障は阪神タイガースにとっては致命的……。したがって今年は、映画の世界においてもこの『ドラゴン・スクワッド』＝『猛龍 DRAGON SQUAD』に主役を譲りその大ヒットまちがいを祈願しよう……？

まさにオールキャスト！

この映画は実にすばらしい俳優陣を、うまく敵、味方、中間（？）に配し、老若男女を問わずどんなファン層も楽しむことができるようにつくられているが、これは多少ステイヴン・セガールのサービス精神によるもの……？ したがって、多少煩わしいが、この映画に登場するそうそうたるスターたちの紹介をしておきたい。

国際警察の若手5人組は？

まず、この映画の主演となる若きエリート国際警察の5人は次のとおり。

①アメリカからやって来たのが、元SWATで左利きの一級射手ホー（^{ヴァネス・ウー}呉建豪）、②地元香港からは元暴走族取締課に在籍し、最高のドライビング・テクニクをもつロク（^{ショーン・ユー}余文樂）、③潜入捜査のスペシャリストで紅一点のシェウ（^{ホアン・シェンイー}黄聖依）、④中国からはスナイパーのシャオジュン（^{シア・ユイ}夏雨）、⑤イギリスからは元特殊部隊員のジェイ（^{ローレンス・チョウ}周俊偉）。呉建豪はF4の1人で、『スター・ランナー』（03年）で見事なボクシング・シーンを披露した台湾のイケメン。余文樂は、『インファナル・アフェア』で若き日の潜入捜査官の役を演じて大ブレイクした香港のイケメン。黄聖依は、『カンフーハッスル』（04年）のヒロインとして、言葉が不自由な美少女を好演した中国生まれの美人女優。夏雨は、『再見～また逢う日まで～』（01年）、『わが家の犬は世界一』（02年）、『玲玲の電影日記』（04年）で私もお馴染みとなった中国の演技派俳優。そして周俊偉は、残念ながら私の記憶にない香港の俳優……？

国際テロリストの3人は？

第2に国際テロリストにも、国際色豊かな演技派をうまく配している。①元コロ

ビア軍大尉のペトロスを演ずるのは、『ターミネーター』（84年）でアーノルド・シュワルツェネッガーとの間で激闘をくり広げた演技派のマイケル・ビーン。②元韓国軍特殊部隊大佐のコー・トンユンを演ずるのは、『火山高』（01年）、『SILMIDO』（03年）などで個性的な役割を演じた韓国の名優ホ・ジュノ。そして、③国際警察の紅一点シュウに抗してテロリスト集団の紅一点となる元ベトナム軍のスナイパー、ユエを演ずるのは、『レディ・ウェポン』（02年）、『マジック・キッチン』（04年）等で私の大好きなマギー・Q。ジャッキー・チェンによって『ラッシュ・アワー2』（01年）、『80デイズ』（04年）のハリウッド映画に起用された彼女は2006年には、『M:i: III』でトム・クルーズと共演を果たすなど、絶好調！

ベテラン幹部の2人は？

第3に『インファナル・アフェア』ファンや純正香港映画ファンにも配慮し（?）、若手5人組を率いる香港警察のホン警視には任達華^{サイモン・ヤム}を配し、さらに定年を5日後に控えた交通課のゴン・ロンには洪金寶^{サム・ハン}を配している。このゴン・ロンは、かつて特別捜査班の責任者として銀行強盗事件を捜査していたが、その時部下6名を殉職させたことの責任をとって、今は第一線を退いている立場だ。この任達華と洪金寶は、私がつい最近観た『SPL（殺破狼）／狼よ静かに死ね』（05年）で共演した強く印象に残る俳優だったため、私もよく覚えている。

この『ドラゴン・スクワッド』では、ホン警視が国際テロリストとの闘いに敗れ無念の殉職を遂げた後、定年を明日に控えたゴン・ロンがその弔い合戦のために、若手5人組を率いて敢然と国際テロリストとの最後の決戦に挑むというスタイルをとっているが、これは香港っ子にはこたえられないのでは……？

こんな失態は……？

この映画の冒頭は、やっとの思いで逮捕した黒社会のボスであるタイガー・デュンの弟パンサー・デュンを出廷させて証言させるための護送任務を描くことから始まる。いくら重要証人だからといって、その護送車が襲われるというのは日本では到底考えられないが、マフィアが暗躍している香港ではそんな可能性も……？

国際警察の若手5人組も、ホン警視率いるパンサーの護送任務に就いたが、その厳戒をものともせず、「敵」はあざやかなお手並みで護送車を襲撃し、パンサーの身柄



Mei Ah Film Production Company Limited,
Visualizer Film Production Limited © 2005 All Rights Reserved

を奪ってしまった。こんな大失態は到底許されないこと明らかなだが、その襲撃実行部隊の鮮やかな手口をみると、これは明らかにプロ集団の仕業。そしてこれがベトロス、コー・トンユン、ユエたち国際テロリスト集団だった。

なぜ国際警察がパンサーの身柄を……？

冒頭のスリリングなシーンが終わると、次はパンサーがベトロスとコーの手によって拷問を受けているシーンに。ここでフラッシュ・バックされる物語が、タイガー・デュンとパンサー・デュンの兄弟が、ベトロスの弟を殺害して、銀行強盗で得た金を独占してしまったという過去の悪行……。コーとベトロスはその復讐のためにパンサーの身柄を拘束し、兄のタイガーからその金を奪い返すとともにタイガーへの復讐を企てていたのだった。

コー vs. ゴン・ロンの「個人戦」は……？

デュン兄弟とベトロスの弟たちによる銀行強盗事件を捜査していながら、銃撃戦でやり討ちに合い、部下6人を殉職させてしまったのが当時の捜査責任者であったゴン・ロン。今そのゴン・ロンは、パンサーの護送任務に失敗した国際警察の若手5人

組を預かっていたが、そのゴン・ロンの前に突然現われたのがコー。コーはかつてのゴン・ロンとの個人戦の死闘において右の頬に手痛い傷をつけられたため、その報復を誓っていたのだった。

『SPL（殺破狼）／狼よ静かに死ね』（『シネマルーム10』389頁参照）でも書いたように、このゴン・ロンを演じる洪金寶は腹のでっぱった重量級ながら身のこなしは俊敏で、その技のさえは大したもの。したがって、コーの襲撃に対してもゴン・ロンはきちんと反撃し、今日はお互いの腕が衰えていないことの確認だけで終わったが……。

タイガー vs. コーの闘いは……？

ベトロスとコーらが警察からパンサーの身柄を奪取したのは、前述の2つの目的によるものだったから、国際テロリストたちが次にやるべきことは、タイガーとの交渉……。と思ったが、やはり国際テロリストのやることは荒っぽい……？

タイガーはパンサーの身柄を受け取るのと引き換えに銀行から強奪した金を渡すという条件を提示したが、コーはそんな条件に見向きもせず、タイガーの護衛たちを皆殺しに……。したがって、タイガーの命が助かったのは、そこにタイガーを追っていたロクとジェイが現れたため……。結果的に、ロクとジェイはコー1人に痛めつけられてしまったが、さすがのコーも警察隊の出動の前に撤退する他なく、タイガーの身柄は警察の手に落ちることに……。

もう1人の美女は……？

この映画には、国際警察の美女シュウと国際テロリストの美女ユエの他、もう1人の美女が登場する。それがタイガーの元愛人のジンで、ジン役には『シルバーホーク』(04年)に出演していた李冰冰^{リー・ビンビン}が起用されている。プレスシートによると、彼女は“2005年度にもっとも雑誌の表紙になった女優”に輝くなど、中国では圧倒的な人気を誇っている」とのことで、何も知らない純真無垢な天使ともいえるべき役に、いかにもピッタリ。

国際警察の若手5人組の中でも、シュウをめぐる恋模様らしき雰囲気は少しあるものの、全員仕事優先のようで、その方面の進展は全く見られない……。それに対して意外なのは、テロリストのベトロスとこのジンとの間に淡く美しい恋愛模様が展開されていくこと。ジンはタイガーの元愛人だったが、今は彼から見向きもされなくなっ

た女。こんなジンにペトロスが近づいたのは、タイガーの隠し口座を探るためだったが、ペトロスはあくまでジンにやさしく接したし、ジンもペトロスに対して何の疑いの心も持たず、真っ直ぐにペトロスを受け止めた。そこで、必然的に生まれてきたのがお互いの恋ゴコロだったが、犯罪プランナーのペトロスに、女に対するこんなやさしさがあったとは意外……？ さて、この恋愛模様の行き着くところは……？

ホン警視 vs. テロリストの対決は……？

タイガーの身柄を確保したことによって、スケベ根性を出した(?)のがホン警視。すなわち彼は、タイガーをエサにしてテロリスト集団のアジトを襲い、これを壊滅しようという計画を立てそれを実行した。ところが、何のことはない。武力闘争の実力は警察よりもテロリストの方がはるかに上だった……。そのため、ホン警視率いる警察部隊はたちまち壊滅状態に……。そんな不甲斐ない警察部隊に代わってその延長戦(?)を闘ったのは、ホーたち若手5人組。互いに持てる力のすべてを出し切った壮絶な銃撃戦の末、若手組はテロリストの1人を倒すことに成功したものの、若手組も、何とあの美人刑事シュウが、美人スナイパーのユエの銃弾に倒れてしまうことに……。少しずつ小出しに犠牲者を出しながら物語を盛り上げていくのはよくあるパターンだが(?)、美人対決(?)でまず国際警察側を血祭りにあげるとは、ダニエル・リー監督もさすがににくい手口……？

最後の決戦は……？

若手5人組はシュウを失い、ゴン・ロンはホン警視を失った。ホン警視が最後にゴン・ロンに残した言葉は、「お前はあと1日警察官だ。最後までその任務を全うしてくれ」というもの。過去の失敗を引きずり、これまで「われ関せず」の姿勢を貫いてきたゴン・ロンだったが、コトここに至るや、コーとの決着を含めて、国際テロリストとの最終決戦は不可避となった。そして、シュウの弔い合戦を決意しているのは残された4人組も全く同じ……。そんな新たな5人組とペトロス、コー、ユエとの対決は、①ゴン・ロン vs. コー、②シャオジュン vs. ユエ、③ロク vs. コー、ホー vs. コーの「個人対決」となったが、これらはそれぞれ、「K-1」の名勝負を観ているような手に汗を握るスリリングなもの。そして、その結果は……？

2006(平成18)年8月31日記